

さわらエコナビ通信

第4号・発行
平成19年10月22日
早良区生活環境課
TEL:833-4341
協力
早良区ごみ減量・
リサイクル推進連絡会議

金屑川をきれいに

五年続く清掃ボランティア
原北校区



徳摩橋付近、夏草をかき分けてごみ回収

「家具や自転車まで、ごみとして捨てられていました。金屑川を何とかしたい一念で」当時を語る原北校区清掃ボランティア会会長の安東寛さん(74)。同会は五年前、校区住民に呼びかけて結成しました。約七十人の会

員はシルバー世代が中心。毎月第三日曜日に金屑川班、第四日曜日に地域道路班の二グループで行っています。

真夏に逆戻りした九月十六日早朝、金屑川公園には約二十人が集合し、大原橋から下流のしおみ橋までの河川清掃を行いました。したたる汗を拭きながら一時間、ポリ袋や缶・ペットボトルなど三十袋ほどのごみを回収。

参加者からは「川を何とと思っているのかな、モラルの向上を」との声も上がっていました。「夏場は暑くて大変ですが、きれいな金屑川であり続けて欲しいと思っています。参加者も募集していますよ」と安東さん。

室見川は私達の財産

生徒自ら清掃活動を企画

金武中学校

八月二十六日、金武中学校生徒会は、夏休みを返上し、近くの室見川約一キロを清掃しました。地域の住民を含め約

百八十人が参加。三十度を超える夏の日差しにも負けず、熱心に清掃活動を行いました。ごみ袋は山積みになりました。ビニールや缶・びん、中には古タイヤ・自転車の車輪など、種類の多さも実感しました。

「室見川は田畑を潤し、水道水の源。貴重な財産です」との今井校長先生の言葉をきっかけに、生徒会自ら室見川の清掃活動を企画。

部活・サークルを回ったり、校内放送で参加を呼びかけた。また一方、公民館・自治協議会など地域に出かけてチラシ配りにも奔走しました。



どのくらいごみはあるのかな

生徒会長の田崎君(3年)は「一学

百道浜で海岸清掃

ラブアースクリーンアップ紹介



第15回アジア太平洋環境会議

期中から準備を進めてきました。各部活のメンバーも自主的に参加してくれました。川は草の間などにごみが隠れているのも分かりました。初めての企画でしたので、改善点なども調べる予定です」と同会の結城君(3年)と声を揃え、手応えを感じた様子でした。

アジア太平洋環境会議(エコアジア2007)開催中の九月九日、百道浜で海岸清掃が行われました。

毎年六月の清掃活動「ラブアース・クリーンアップ」を、アジア太平洋環境会議に参加している各国の皆さんに紹介するため、中央区の地行浜とともに

に実施。百道浜海岸にはNPO法人クリーンふくおかの会や企業・団体・学生の皆さん、「アジア太平洋環境会議に参加されている皆さんに、きれいな百道浜を見てもらおう」と百道浜校区自治連合会（大屋会長）の呼びかけなどで、約三百人が集合し清掃活動を紹介しました。



会議場のシーホークホテルに向かって清掃開始

会議は、アジア太平洋地域の十七カ国の環境大臣等が出席し「廃棄物・リサイクル」と「気候変動」について話し合われました。

「廃棄物・リサイクル」について各国は、循環型社会を築いていくために3R（リデュース（ごみを減らす）・リユース（繰り返し使う）・リサイク

ル）を推進していくこと、また「気候変動」では、地球温暖化防止のために二酸化炭素など、温室効果ガスの排出を抑える低炭素社会を実現していくこと。具体的には、エネルギー効率を高める生活スタイルの追求や、技術開発の促進などを確認しました。

~~~~~

## 不要品を安く

諸学校でガレージセール  
野芥校区ごみ減量

・リサイクル推進会議

九月二日、野芥小学校グラウンドでガレージセールが行われました。野芥校区ごみ減量・リサイクル推進会議が中心となって毎年実施しているもので、校区の恒例行事となっています。

会場には、所狭しと品物が並びます。食器類・衣類・本類・手作り人形・お手玉セットに、園芸品・廃油石けんまで。市価より格安で販売されています。出店者は、町内会やふれあいサロン・公民館サークルなどから十二店。

混声コーラスグループの真鍋良二さんは「売れ行きは上々です。リサイクルのためにも残らず販売したい」と話

していました。



日用品の品揃えは豊富

校区ごみ減量・リサイクル推進会議会長の鶴田重幸さん（68）、は「ガレージセールをきっかけに不要品はすぐごみにせず、リサイクルを心掛けて欲しい」と話していました。

## 第二土曜日にリサイクル

集団回収や廃油石けんづくり  
高取校区ごみ減量

・リサイクル推進会議

高取校区ごみ減量・リサイクル推進会議（佐藤秀夫会長（72））は、第二土曜日をクリーン高取デーとして、集

団回収や町内清掃、公民館での廃油石けん作りを行っています。

九月八日、公民館には朝早くから清掃ごみや古紙類の持ち込みがあつていました。十時を回ると、廃油石けん作りがスタート。当番の昭代一丁目・曙二丁目の皆さんが作業を開始。一斗缶に水で溶かした薬品と廃油を入れ約三十分、棒でかき混ぜます。牛乳パックの型に流し二ヶ月寝かしたら完成。



食用廃油を入れますよ

世話役の西田美佐子さんは「十年以上になります。リサイクル意識も広がってきました」と話しています。佐藤会長は「今後もずっと続けますよ」と慣れた手つきで石けんを牛乳パックに流し込みながら話していました。